

会 議 報 告 書

1 会議名	平成30年度第1回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	平成30年10月2日（火） 午後3時から4時まで	3 場 所	北上地区合同庁舎2階大会議室
4 出席者	<p>【委 員】15名（別紙名簿のとおり）</p> <p>【事務局】5名（教育長、教育部長、子育て支援課長、子育て支援課長補佐、育児支援係長）</p> <p>【傍聴者】2名（報道機関）</p>		
1 開 会	（子育て支援課長）		
2 あいさつ	（教育長、今西会長）		
	※報告の前に、今年4月に発生した保護責任者遺棄致死事件の監査の概要を説明し会議後に内部監査報告書を配布。		
3 報 告	（今西会長進行）		
	北上市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について（平成29年度末現在）		
	【説明の要旨】		
	北上市子ども・子育て支援事業計画に記載されている67事業の進捗状況について、資料に沿って主な項目について報告した。		
	【質疑、意見】		
	5 その他でまとめて質疑意見いただく。		
4 議事			
	・北上市認可保育施設の利用定員について		
	【説明の要旨】		
	31年度開所を予定する小規模保育事業の認可を希望する事業者があったことから、現在の利用定員の状況と、子ども・子育て支援事業計画で定めた平成30年度及び31年度の利用定員の計画について、資料により説明し協議した。合わせて32年度開所を希望する保育所について説明。		
	【質疑、意見】		
	なし		
	・第2期子ども・子育て支援事業計画策定について		
	資料に沿ってスケジュールを説明。		
	【質疑、意見】		
	・ニーズ調査の対象者は？		
	⇒小学生世帯2千、就学前1千をサンプル無作為で抽出、アンケートは郵送で、調査内容は親の就労状況、保育所の利用状況、北上市の保育について望むことなど今年度調査分析し100ページ程度で基礎調査としてまとめる。来年度基礎調査を基に市として事業計画をどのように作るか、ニーズや保育の量など検討。		
	・前回の件数と比べてどうか？基準は？		
	⇒件数は前回と同じ。基準はない。回答率70%と想定し、信頼できる数字を得られるよう設定。		

- ・障がい児を考えていただきたい。
⇒16 地区まんべんなくと考えている。障がい児ピンポイントで対象は難しいが、設問に設ける等カバーしたい。
- ・前回課題はあったか。それを生かしているか。
⇒設問内容は国の例示は前回とあまりかわっていないが、時代の変化、市独自の設問など、前回足りないところはフォローする。
- ・障がい児について無作為でたくさんデータ得られないと思うが、障がい児の声を聴くのは必要。
⇒ほかの部署からの情報提供による等、考えていきたい。

5 その他

- ・計画実施状況の42番通学路整備について、地区懇談会での要望がなかなか実現しないが、年どれくらい実現しているか、調査して実現しているか。グリーンベルトは時間かかるというが。
⇒学校教育課で担当。学校単位で毎年調査。国道、県道、信号等管理は別々だが、集まって協議している。当面難しいものある。カラー舗装やイメージハンプは計画的に行っている。継続している事業。
- ・通学路の整備に関連するが、県道の歩道の草刈りの回数が年1回。この会の立場で要望してはどうか。
⇒都市整備部から県に働きかけているが改めて要請するように伝える。
- ・街灯の設置について子どもの安全のため働きかけていただきたい。
⇒具体的に設置がほしいのは都市整備部に要望を。意見があったことは伝える。
- ・近年の異常気象等、中長期計画に災害対策、子どもの安全等盛り込んでほしい。特にクーラー設置等取沙汰されているが。東芝メモリ建築中、関連企業、四日市から戻る従業員等、子ども増え、預ける場がない、保育士不足等深刻な問題では。人の異動に関しても盛り込んでほしい。
⇒東芝メモリについて小学校、中学校にも関連。商工部と連携。従業員向け企業主導型保育所について考えてほしいと連携。保育士不足はどこの園でも課題。新計画に大きなテーマとするかの議論。施策急ぐ必要あり。喫緊の課題。この会議でも意見いただきたい。
- ・小学校低学年の家庭について。親の勤務時間遅く24時間体制の保育所について相談される。
⇒24時間体制の認可保育所はない。認可外は1か所。心配な子がいる場合当課で相談があればフォローしている。
- ・親の勤務時間長い。男性1人で育てる場合、男性ゆえの悩みあり。市外からの転入者も多く、祖父母が近くにいない等、4月の事件まで行かなくとも予備軍いるのでは。働きながら育てられる親の環境整備、企業への意識啓発。児相人手不足、人の手で出来ることは限界ある。予防策、各家庭でしっかり子供を見ることが出来る余力ができるよう関係機関への働きかけ必要では。「47番父親講座」や「48番仕事と育児を両立しやすい職場環境の意識啓発事業」の進捗にからむのでは。
⇒保育しやすい環境づくり。市外からの転入者多い当市特徴あり。その視点をいれながら計画位置づけ考えたい。ファミリーサポートセンターあり（概要説明）。子育てサークル伸びない（小規模保育事業所の拡充、SNSの発達）。ニーズにあった形のものに変えていきながら計画位置づけ考えたい。

・ニーズがあったら答える形だが、今回の事件、地域が大事と思う。しくみが必要かと思う。

⇒保護責任者遺棄致死事件について、市の体制、児相との関係、認可外保育所との連携、保護者、地域はそのとおり。市がやらなければならないこと、不明確のものを明確にすること。保護者に会えなかったこと。虐待は通常強く言って保護者に拒否され家の中で見えなくなることが怖く踏み込めない。それがあっても児相警察と踏みこむ。今までも近い状況のものはあった。リスク管理を高める。地域について、見守りはしていただく。おかしいと思ったら子育て支援課や児相へ。大変なところは警察へ。

民生委員は家庭に入り込めない状況。内部監査において、情報があったら、受理会議。緊急は児相に、そうでないときは何時間以内に安全目視と、県のマニュアルプラス市の対応を決めた。

・酸素を届ける仕事しているが、数年前、子に酸素を処方どおり吸わせていない家庭あり。夜、母仕事、夫が面倒みている。看護ステーションに指導してもらったが受け入れてもらえない。医師もとめられず。父がうるさいから殴って死なせた。どこで防ぐかのタイミング難しい。誰かが言わないといけない。

老人一人暮らしの家が施設入所により空き家で草ぼうぼう。蜂が出て子どもたちの通学路変えた。市に相談したが地域でと言われ地域の見守り隊が木を切って対応。

⇒民地うまくできる仕組み作らないと難しいが、参考になった。

何かありましたら、電話、メール等で意見寄せていただきたい。

教育長

いろいろな御意見御質問いただいたが、子どもを育てる環境について予想される問題に対応できるような事業計画、会議で何等かの発信をしなければならぬと考える。今後子どもを育てる環境を何とか良くしていきたいので、我々も頑張るが皆様の御協力もお願いしたい。